

学校研究報告書 2021

子どもの学び・育ちからスタートする教育課程の充実



熊本県立大津支援学校

笑顔で仲よく助け合いつながる子



はじめに

本校には、平成30年度の研究成果物である、児童生徒の自立と社会参加に向けて必要な基盤となる資質・能力をまとめた「育成したい力一覧表」があります。そして「育成したい力一覧表」を活用してアセスメントを行い、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行っています。

さて、現在の学習指導要領では、各学校はカリキュラム・マネジメントの充実に努めることを求められています。本校では、取組1として、先に述べました「育成したい力一覧表」を活用して個別の指導計画、年間指導計画、日々の授業計画等の諸計画を立てています(P)。次に取組2で、授業モデル「ひめつつじ学習」の実践を行い、学習過程の改善を図ります(D)。そして取組3では、開発した「個人シート」などのツールを活用して学習評価及び指導評価を行い(C)、その評価データを基に教育課程の改善案を作成し次年度の教育課程を決定(A)していきます。このPDCAサイクルの確立を図り、本校のカリキュラム・マネジメントのシステムを構築していきました。

そして、カリキュラム・マネジメントの1つの側面である「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと」について、専門性の向上と働き方改革の推進の両立も同時に図ることができるよう、本校独自の校務支援ツール「おげんまる」を開発し運用してきました。「おげんまる」には、「育成したい力」のアセスメントをはじめとする、計画を立てたり評価をしたりする際に必要なデータが入っています。そのデータを私たちが「共有」することで、一人一人の学びの連続性を重視しながら授業の改善に取り組むことができ、ひいては私たちの専門性の向上にもつながると考えています。

この研究の根幹は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた最善の教育を行いたいというところにあります。そのためには、私たち一人一人の専門性を向上させること、カリキュラム・マネジメントの充実に努めることが大切だと考え取り組んで参りました。どうぞ皆様方の忌憚のないご意見をお寄せください。

まだまだ検討すべき課題も残されていることとは思いますが、本研究が少しでもこれからの特別支援教育の充実や実践につながれば幸いです。

令和4年(2022年)3月 校長 國友 昭彦

目次

はじめに

目次

I 研究の概要	1
II 研究の実際		
1 取組1「育成したいカー一覧表を活用した授業づくりシステム」	3
2 取組2「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」	7
3 取組3「学習評価及び指導評価を生かした教育課程の見直しと改善」	9
4 校務支援ツール「おげんまる」の運用	11
5 学部研究の実施～チーム研究～	13
III 研究の成果と課題	17
IV 研究のまとめ	20
講評とあとがき	21
巻末資料	23
おわりに		

I 研究の概要

学校教育目標

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行い、将来の自立と社会参加をめざして主体的に学び、取り組む児童生徒を育成する。

平成31(2019)年度～令和3(2021)年度の3ヶ年計画

研究テーマ

「子どもの学び・育ちからスタートする教育課程の充実」

研究テーマ設定の理由

本校には、本校の教育目標を具体化した、自立と社会参加に向けて必要な基盤となる資質・能力をまとめた「育成したいカー一覧表」があり、一人一人の児童生徒について「育成したいカー一覧表」を活用したアセスメントを行い、そこから授業づくりを行っている。

本研究においては、「育成したいカー一覧表」を活用したアセスメントをはじめ、年間指導計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画や日々の授業計画等の見直しを行う。また、児童生徒が「育成したい力」を身に付けることのできる質の高い授業づくりを目指し、学習の過程を見直す等の授業改善に取り組む。授業後や単元毎に行う評価システムを整え、評価を教育課程の改善につなぐことのできる PDCA サイクルの確立を図り、本校のカリキュラム・マネジメントを構築していきたい。

研究の目的

- 「育成したいカー一覧表を活用した授業づくりシステム」の運用により、カリキュラム・マネジメントの確立を図る。
- 教師一人一人の授業力向上により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。

取組1

育成したいカー一覧表
を活用した
授業づくりシステム

取組2

主体的・対話的で
深い学びの実現に向けた
授業改善

取組3

学習評価及び指導評価
を生かした
教育課程の見直しと改善

校務支援ツール「おげんまる」の運用

研究の方法

1 取組1 「育成したいカー一覧表を活用した授業づくりシステム」

- (1) 育成したいカー一覧表を活用したアセスメント
- (2) 保護者との面談
- (3) 重点項目・年間目標の設定
- (4) 個別の指導計画・年間指導計画の作成
- (5) 授業づくり
- (6) 育成したい力の評価

2 取組2 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

- (1) 授業モデル「ひめつつじ学習」の提案
- (2) 学部研究と授業研究会の取組

3 取組3 「学習評価及び指導評価を生かした教育課程の見直しと改善」

- (1) 「年間計画及び教科との関連表」*の活用 *熊大附属特別支援学校の成果物
- (2) 「個人シート」及び「単元評価シート」の活用～生活単元学習～

4 校務支援ツール「おげんまる」の運用

5 学部研究の実施～チーム研究～

研究の計画



研究の組織

学校全体で研究を推進するにあたり、複数の分掌部で横の連携を図りながら取組を進められるよう、研究推進連絡会を組織した。

教務部	個別の指導計画、通知表の様式、年間指導計画、授業時数カウント、教育課程の編成、観点別評価
進路指導部	卒業生の追支援、教育課程の編成
情報・視聴覚部	各種データ・様式等の管理と作成、システムの構築
教育・自立支援部	個別の教育支援計画
研究部	研究の総取りまとめ、授業研究、各学部研究、主体的・対話的で深い学びの実現

II 研究の実際

1 取組1 育成したい力一覧表を活用した授業づくりシステム

目的

授業のPDCAサイクルを確立し、育成したい力一覧表を活用した授業づくりを図る。

*以下、「育成したい力一覧表」は「一覧表」と記す

方法・内容

(1) 一覧表を活用したアセスメント

- ・次年度に「付けたい力」について、「生活する力」・「かかわる力」・「働く力」の3つの力から選定する。(年度末の2月に前年度担任が記入する。)
- ・現担任が、5月時点で「育成したい力」の段階の確認を行う。

全職員が同じ物差しを使ってアセスメントすることで、一人一人の育成したい力が明確になる。

アセスメントシート

生活する力	段階					達成率	生活する力				
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
服装と身だしなみ	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	服装と身だしなみ	2.0	3.0	3.0	3.0
掃除	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	掃除	2.0	3.0	3.0	3.0
食事・調理	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	食事・調理	2.0	3.0	3.0	3.0
家事・洗濯	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	家事・洗濯	2.0	3.0	3.0	3.0
生活環境の維持	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	生活環境の維持	2.0	3.0	3.0	3.0
役割	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	役割	2.0	3.0	3.0	3.0
挨拶	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	挨拶	2.0	3.0	3.0	3.0
挨拶に挨拶	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	挨拶に挨拶	2.0	3.0	3.0	3.0
公共施設等の利用	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	公共施設等の利用	2.0	3.0	3.0	3.0

(2) 保護者との面談(随時)

- ・保護者への説明責任を果たし、共通理解を図る。

(3) 重点項目・年間目標の設定(5月)

- ・アセスメントや個別面談を参考に、前年度担任が選定した「重点的に付けたい力(重点項目)」の見直し・設定を行う。また、それをもとに、年間目標を設定する。



ステップシート

No.	218	年度	2021	名前	学部	小学部	学年	5年	グループ
順位									
項目	生活する力	段階	重点項目	項目	段階	働く力	項目	段階	
1	着替え	5	1	自他の感情の理解	4	1	仕事上のコミュニケーション	5	
2	時刻に時間	5	2	コミュニケーション	5	2	目標設定	4	
3	お金	5	3	集団参加・協力	5	3	振り返り	4	

育成したい力 年間目標
生活する力では、一人で更衣室に行き、時間内でも更衣をすることができる。
かかわる力では、自分の行動を振り返り、友達との距離感に気づくことができる。
働く力では、経験したことや体験したことを、周りの人に伝えることができる。

(4) 個別の指導計画・年間指導計画の作成(5月)

- ・「目指す3年後の姿・生活」
- ・「年間目標」
- ・「重点的に付けたい力(重点項目)」
- ・「指導場面」
- ・「評価」

「育成したい力」を踏まえた年間指導計画や単元(題材)指導計画、学習指導略案シートを作成することで、「育成したい力」と授業の関連付けを図る。

教科等横断的な授業実践になるよう指導場面を設定する。

個別の指導計画①

氏名(性別)	学部 年組	小学部 5年	担任
目指す3年後の姿・生活	・着替えて身だしなみを整えることや、清潔を保持して手洗い等を行うこと、学校の学習や付帯を一人で行える。 ・かかわる力 ・相手に応じた言葉で自分の気持ちを伝えることができる。 ・働く力 ・活動に意欲を持ち、日常生活に必要なルールを守って行動することができる。		
年間目標	・生活する力 ・時間を意識して、着替えをすることができる。 ・かかわる力 ・友達の様子や表情を見ながら、行動したり、協力したりすることができる。 ・働く力 ・学校行事等で目標を教師と一緒に決め、活動後は、自分の頑張りを周りの人に伝えることができる。		

重点的に付けたい力	指導場面	評価
「生活する力」 着替え 掃除 清潔・健康管理 食事・調理 整理整頓・掃除 役割 挨拶 時間と時間 公共施設等の利用	毎朝 日常生活の指導	毎朝 日常生活の指導
「かかわる力」 かわわり(友達、異性、距離) 自他の感情の理解 集団参加・協力 コミュニケーション 挨拶・特別活動	自立活動 体育 国語 特別活動	体育 特別活動 生活単元学習
「働く力」 決まりやルールの遵守 態度(仕事上) 見通し・スケジュールの把握 仕事上のコミュニケーション(報告・依頼) 自己選択 計画性 整理整頓 整理整頓 仕事・職業の理解 働く力(そのほかも含む) 仕事の技能 道具の使い方	日常生活の指導 生活単元学習 特別活動	日常生活の指導 生活単元学習 特別活動 体育

(5) 授業づくり

個別の指導計画②

目標	前期における目標・手立て	評価
<生活> ・はらきやうきやうきを集めること ・はらきやうきやうきを集めること ・はらきやうきやうきを集めること	・はらきやうきやうきを集めること ・はらきやうきやうきを集めること ・はらきやうきやうきを集めること	
<国語> ・国語の学習の楽しさを味わうこと ・国語の学習の楽しさを味わうこと ・国語の学習の楽しさを味わうこと	・国語の学習の楽しさを味わうこと ・国語の学習の楽しさを味わうこと ・国語の学習の楽しさを味わうこと	
<算数> ・算数の学習の楽しさを味わうこと ・算数の学習の楽しさを味わうこと ・算数の学習の楽しさを味わうこと	・算数の学習の楽しさを味わうこと ・算数の学習の楽しさを味わうこと ・算数の学習の楽しさを味わうこと	
<特別活動> ・特別活動の楽しさを味わうこと ・特別活動の楽しさを味わうこと ・特別活動の楽しさを味わうこと	・特別活動の楽しさを味わうこと ・特別活動の楽しさを味わうこと ・特別活動の楽しさを味わうこと	

<特別活動> **かかわるー自他の感情**
・学級活動では、クラスの友達のことについて知り、友達の頑張りを認めることができる。

年間指導計画 (音楽)

年度(西暦)	教科書音楽	学年	小・中	名前	小学部5年生	学習グループ
2021/04/13	2021/05/27	2021/06/24	2021/07/28	2021/08/21	2021/09/04	2021/09/18

2021/09/02 から
音楽を聞きながら、体を動かしてみよう・とんぼのめがね・夏の思い出なーに

学習指導略案①

管理番号: 471	作成年月日: 2021/07/12	主担任: 西野
学級活動 (シート)	特別活動	
1 題材名「友達のがんばりをかかげよう」	2 児童 (生徒) 数 単自活動の記入	
3 単元 (題材) 目標	単元 (題材) の目標	育成したい力
知・技	友達の様子がわかること、友達の頑張りを認めること、友達の頑張りをかかげようとしていること。	育成したい力
思・情・表	友達の頑張りに目を向け、頑張りをかかげようとしていること。	育成したい力
4 指導計画	1 07/13 水 友達の頑張りを認める。	
	2 07/14 水 友達の頑張りを認める。	
	3 07/15 水 友達の頑張りを認める。	
	4 07/16 水 友達の頑張りを認める。	
	5 07/17 水 友達の頑張りを認める。	

学習指導略案②

管理番号: 471	作成年月日: 2021/07/12	主担任: 西野
学級活動 (シート)	特別活動	
1 題材名「友達のがんばりをかかげよう」	2 児童 (生徒) 数 単自活動の記入	
3 単元 (題材) 目標	単元 (題材) の目標	育成したい力
知・技	友達の頑張りを認めること、友達の頑張りをかかげようとしていること。	育成したい力
思・情・表	友達の頑張りに目を向け、頑張りをかかげようとしていること。	育成したい力
4 指導計画	1 07/13 水 友達の頑張りを認める。	
	2 07/14 水 友達の頑張りを認める。	
	3 07/15 水 友達の頑張りを認める。	
	4 07/16 水 友達の頑張りを認める。	
	5 07/17 水 友達の頑張りを認める。	

同じ管理番号を使用することで、「育成したい力」をはじめ、それぞれの項目を関連付けることができる。

個人シート

管理番号: 471	西野	2021	名前	小学部	5年	特別活動
知・技	友達の頑張りを認めること、友達の頑張りをかかげようとしていること。					
思・情・表	友達の頑張りに目を向け、頑張りをかかげようとしていること。					
主体的	「がんばりをかかげよう週刊」では、自分から見つけ、教師や友達に伝えようとしている。					
育成したい力	かかわる力 (自他の感情の理解)					4

- ・学習指導略案シート① (単元・題材計画) と学習指導略案シート② (指導計画)、個人シートがあり、シート①には、一覧表の項目や段階、学習指導要領との関連を記入する。
- ・単元 (題材) 終了後、シート①には、単元 (題材) の評価を記入する。
- ・学習指導略案の形式を統一し、データベース化された過去の学習指導略案や学習のデータをもとに授業を組み立てることができる。

(6) 「育成したい力」の評価 (2月)

- ・単元・題材の評価を行い、アセスメントシートに育成したい力の伸び率を入力する。コメント欄には、伸び率の根拠を文章記述する。
- ・個別の指導計画の重点項目の評価を入力することで、年間目標の評価につながる。
- ・育成したい力の評価を入力後、現担任が次年度の重点項目を選定することで、次年度担任への引き継ぎ資料となる。

※評価の時期

個別の指導計画① (年間目標の評価) …… 年度末

個別の指導計画② …… 学期毎

学習指導略案シート① …… 単元 (題材) 終了後

学習指導略案シート② …… 授業後

個人シート …… 単元 (題材) 終了後

育成したい力 …… 年度末

年間指導計画 …… 学期毎

(教育課程検討委員会)

2 取組2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

目的

授業モデル「ひめつつじ学習」の授業実践を行うことで、学習過程の改善を図る。

方法・内容

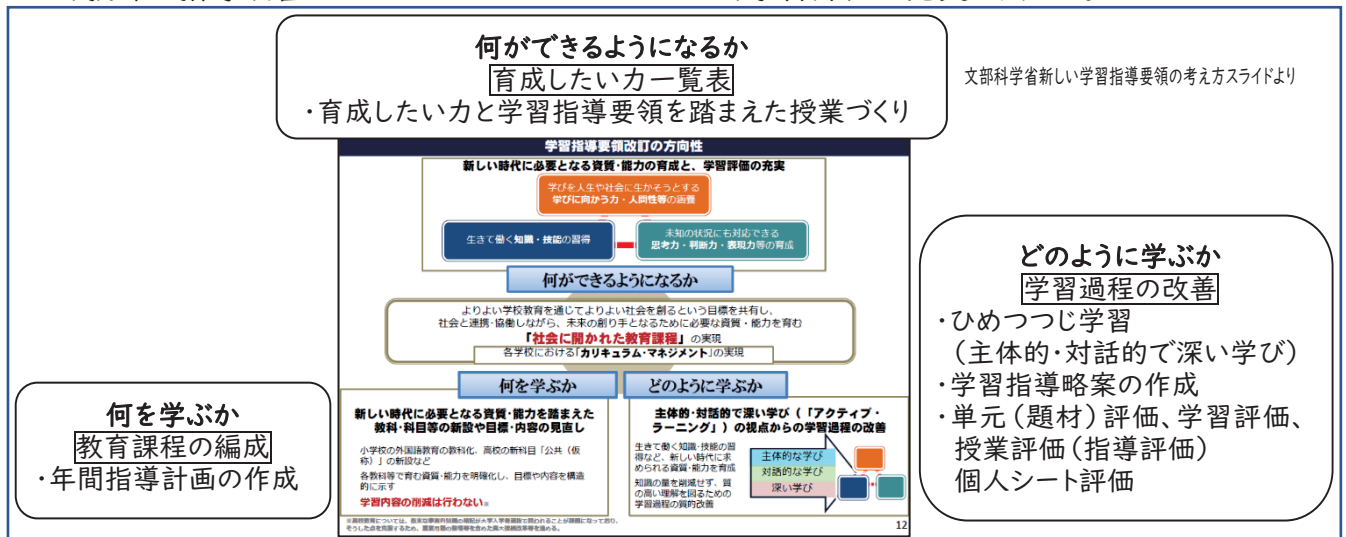
(1) 授業モデル「ひめつつじ学習」の提案

本校では学習指導要領改訂の方向性の中に示されている“どのように学ぶか”の学習過程の改善について、「ひめつつじ学習」「学習指導略案の作成」「単元(題材)評価、学習評価、個人シート評価」の3つのことに取り組んだ。令和2年度に、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業モデルとして「ひめつつじ学習」を提案した。



- 「ひ」…日付の確認を通して学習に向かう姿勢を整える。
- 「め」…めあて(目標)を提示すると共に、本時の流れを伝え、見通しを持たせる。
- 「つか」…基礎的な学習を行う。
- 「つな」…つかもようで学んだ基礎的内容を活かした発展的な学習を行う。
- 「じ」…本時のまとめや振り返り、自己評価を行う。

上記を基本パターンとし授業を行うこととした。授業のモデルを全職員が共通理解し、創意工夫を凝らした授業実践を行うことが、主体的な学びに向かう姿、対話的な学びに向かう姿、深い学びにつながると考えた。また、児童生徒の学びを振り返り、児童生徒の学習改善につながるもの、教師の指導改善につながるものにしていくために、学習評価の充実を図った。



学習指導略案シートは、「ひめつつじ学習」に沿った学習過程を明記する形式に整え、学習指導略案シート①に単元(題材)評価、学習指導略案シート②に学習評価、授業評価(指導評価)の欄を設けた。授業後には、単元(題材)について、授業内容や教材教具、教師の働きかけ等の評価を行うようにした。個人シートでは、育成したい力、個別の目標や観点別目標を記入し、学習後に評価をすることで指導と評価の一体化を図った。

これらのシートのデータベース化で現在約550の学習指導略案が蓄積され、検索可能である。

(2) 学部研究と授業研究会の取組

各学部においてチームを編成し、対象児童生徒の育成したい力を身に付けるための教科等横断的な授業を考えると共に、「ひめつつじ学習」の授業モデルに沿った授業改善に取り組んだ。

【中学部の取組 ～「ひめつつじ学習」の授業モデルに焦点化した授業の提案～】

中学部は、3つのグループに分かれ、教科(国語)、自立活動、作業学習の3つの授業で研究授業を行った。授業研究会後のアンケートで「ひめつつじ学習を意識した授業でしたか」(5段階評価)の項目において、国語4.2ポイント 自立活動4.2ポイント 作業学習3.9ポイントと概ね高い評価が得られ、教科だけでなく自立活動や各教科等を合わせた指導においても「ひめつつじ学習」が実践できた。

【高等部の取組 ～めあての提示、「じっくりふりかえろう」に焦点化した授業の提案～】

高等部は、授業改善において評価の仕方についての課題意識が高かったため、学習内容に応じて3グループに分け、自己評価の仕方や評価方法の工夫について改善に取り組んだ。「ひめつつじ学習」の「めあて」の提示と「じっくりふりかえろう」に焦点を当て、国語、作業学習、自立活動の授業の提案を行った。以下の5段階評価の結果の通り、各グループの実態に応じためあての提示や評価方法の工夫を行うことができた。

作業学習(3年Ⅲ課程)	めあての提示4.3ポイント	評価方法(工夫)4.2ポイント
国語(1年Aグループ)	めあての提示4.4ポイント	評価方法(工夫)4.3ポイント
自立活動(2年Ⅰ課程)	めあての提示3.7ポイント	評価方法(工夫)3.8ポイント

結果・考察

- ・令和2年度のアンケートにおいて、毎時間「ひめつつじ学習」を意識している教師の割合は全学部の17%であった。令和3年度には全学部の89%が「ひめつつじ学習」を実践できており、意識が高まった。
- ・「振り返りをじっくり行うことで自分の頑張りや友達の頑張りを見つめ直し、次の学習への意欲につながっている様子が見られた」や「『つなげよう』まで授業を展開することで学んだことを般化でき、身に付けるまで到達できていることが多くなったと思う」等の感想があった。
- ・基本は1時間の中で「ひめつつじ学習」を完結させる授業モデルであったが、数時間かけて完結したり、単元を通して取り組んだりする等、多様なパターンが見えてきた。
- ・学部研究(*)を通し「めあて」と「じっくりふりかえろう」、「つかもう」や「つなげよう」等に焦点化した研究ができた。 (*)学部研究ページ参照
- ・授業研究会後のアンケートでは「他学部の授業を見る良い機会となった」「めあて(目標)の提示の仕方や振り返りの仕方等のやり方を考える良い機会となった」等の意見もあがった。

今後に向けて

- ・「主体的な学びの姿とは」、「対話的な学びの姿とは」、「深い学びとは」について、児童生徒のどのような姿なのかを具体的に示したり深めたりすることが難しかった。どのような姿を目指すのかを追究することが今後の課題である。

(1) 「年間計画及び教科との関連表」の活用



〔学習評価〕
・成長が見られた人数

〔指導評価〕
・各教科の内容の確認
・目標や内容の妥当性
・追加項目や削除項目

単元・題材終了後、年に3回程度、「年間計画及び教科との関連表」を使い、計画していた教科等の内容や観点等を取り扱うことができていたかを各担任が確認する。日常生活の指導や教科については、担任が「成長が見られた」児童生徒の人数を調べ、

学部会で指導目標や内容の妥当性について意見交換を行う。教務部で集計を行い、それらの評価データを基に教育課程検討委員会で報告や意見交換を行う。検討委員会後、学部会にて次年度の「年間計画及び教科との関連表」作成に向けての共通理解を図り、各学年で次年度の作成を行う。

(2) 「個人シート」及び「単元評価シート」の活用～生活単元学習～

個人シートでは、児童生徒の一人一人の育成したい力や各授業における観点別目標が設定されている。単元・題材終了後に、担任が観点別評価を行い、学部会で単元評価シートを活用して意見交換を行う。それらの評価データを基に教育課程検討委員会で検討を行い、各学部で次年度の取り扱い方を検討する。

個人シート

単元評価シート

単元名「 学習評価(個人評価)」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
目標の妥当性	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △
各教科等を合わせた指導 ※目標を達成するための内容 を取り扱うことができたか	◎ ○	◎ ○ △	◎ ○ △
時期	◎ ○	◎ ○ △	◎ ○ △
時数	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △
学習形態	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △

〔学習評価〕
・観点別評価の人数

〔指導評価〕
・目標や内容の妥当性
・時期・時数・学習形態

結果・考察

- ・「年間計画及び教科との関連表」では、担任が各教科の項目について評価することで、指導の成果と課題が可視化できた。一方で、基準が曖昧で数値化しづらい点もあった。
- ・「個人シート」や「単元評価シート」を活用することで簡潔に短時間で評価を行えるようになった。各教科等を合わせた指導の方がよいか教科別で学習した方がよいかについても意見交換ができ、次年度を見据えた振り返りができた。
- ・「年間指導計画」の見直しと改善を行った。単元・題材毎の枠で計画することができ、育成したい力を記入する欄も加え新たな様式に変更した。

今後に向けて

- ・「個人シート」や「単元評価シート」を活用した評価の方法を継続していき、評価を改善に繋ぐ意識を高めていきたい。
- ・「年間指導計画」は、校務支援ツール「おげんまる」に組み込むことで学習指導略案シートや個人シートとも関連させやすくなったが、令和3年度からの実施なので、今後、使用状況等を検討していく必要がある。

年間指導計画

関連する教科や内容項目を選択して入力

育成したい力を入力

4 校務支援ツール 「おげんまる」の運用

学習指導略案シート①②

指導略案データベース。内容毎に検索でき、過去の授業データを参考にできる。

1 単元名
2 授業(生徒) 教科書単元活動の名称
3 単元(題材) 目標
4 授業計画
5 単元(題材)の解説

管理番号
学年
名前
教科

個人シート
管理番号
名前
学年
教科

個人シート

学習指導略案とリンクしており、単元(題材)の学習評価を学習指導要領の3観点で評価を行う。

個人評価シート
学年
生徒氏名
生活(前期のわがい)
生活(前期の手立て)
生活(前期の評価)

個別評価

目標・手立て・評価の記入。個人シート等を活用しながら個別の指導計画、通知表の下書きとして活用。

年間計画データベース
学年(西暦)
教科種
学年
名前
グループ

年間計画データベース

アセスメントシート、ステップシートを基に年間指導計画を作成する。

おげんま 学習計画と評価

学習指導略案シート①②

個人シート(ポップアップ)

個人シート(印刷時に使用)

個別評価(小学部)

個別評価(中学部)

個別評価(高等部)

年間計画データベース

教材教具データベース

教材教具データベース
管理番号
年度
教科等
教材の種類
使用者名等
説明
学習の様子
使用した教材・教具の画像等
使用した教材・教具のファイル

教材教具データベース

授業に使用した教材・アプリの紹介や過去に使用された教材の検索が可能。略案シートともリンクしている。

育成したい力	名前(大津次郎)										中学部	2年	2組	注意事項	入力例								
生活する力	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	現段階	生活する力			0.0	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2
習習え													0.0	習習え									
接続													0.0	接続									
読解・読解管理													0.0	読解・読解管理									
文章・読解													0.0	文章・読解									
読解指導・読解													0.0	読解指導・読解									
役割													0.0	役割									
おま													0.0	おま									
特別と特別													0.0	特別と特別									
公共施設等の利用													0.0	公共施設等の利用									

育成したい力アセスメントシート
 前年度担任が児童生徒の実態について数値やコメントを入力し、現担任が確認・修正を行う。

る ver1.1 すべてを保存して終了

育成したい力 管理

育成したい力フォルダを開く

検索解除

検索一致で入力してください

育成したい力 (ステップシート)

しらべ太郎

マニュアル

入力の要領や操作方法について学習できます

ステップシート名簿追加

小学部評価名簿追加

中学部評価名簿追加

高等部評価名簿追加

係がデータ管理に使用します

おげんまるタイムの設定
 授業のPDCAサイクルの確立のためには、評価をする時間が必要である。そこで、授業後や単元(題材)後に確実に評価をするために、「おげんまるタイム」を設定した。月行事予定で学部毎に組み込むことで、全職員が評価について話し合ったり入力したりできるようにした。

小学部
 第1、第3水曜日 16:00~16:15

中学部、高等部
 第2、第4水曜日 16:00~16:15

No.	0	年度		名前		学部		学年		グループ		育成したい力 年間目標
生活する力			かかわる力			働く力						
順位		項目		段階		順位		項目		段階		
1					1							
2					2							
3					3							

ステップシート
 前年度担任が次年度伸ばしてほしい項目を選択する。現担任が引き継ぎ、支援内容を検討する。

育成したい力 クリア

力

内容

学習指導要領 ※ 標準に絞って入力してください。 クリア

1. 学部

2. 教科

3. 単元

4. 段階

5. 3つの柱

6. 段階の目標

7. 段階の内容 1

8. 段階の内容 2

9. 各学部の目標

しらべ太郎
 育成したい力と学習指導要領の関連を調べることができる。略案シートや個人シート作成等に活用する。
 *三校合同成果物「特別支援学校学習指導要領各教科内容表」を活用

5 学部研究の実施～チーム研究～

全学部共通の学部研究

- ① チーム毎に対象児童生徒の選定
- ② 育成したい力(重点項目)の確認
- ③ 実態把握・中心課題の分析
- ④ 第1期の授業実践の検討
- ⑤ 授業計画・実践・評価
- ⑥ 改善点から第2期の授業検討
- ⑦ 第2期の授業計画・実践・評価
- ⑧ 実践報告会

月に1回学部研究を設定

チャート図を活用した授業研究(全学部共通)

1学期		2学期	
8月	9月	8月	9月
実態把握 実態 育成したい力 (項目・段階) 今年度の目標	目標・内容 [目標] [内容]	目標・内容 [目標] [内容]	目標・内容 [目標] [内容]
授業実践	授業実践	授業実践	授業実践
7月中旬	7月下旬	7月中旬	7月下旬
評価・改善から 第2期へ			
評価(振り返り) 成長の様子 実践			
まとめ 実践報告			

実態・育成したい力
年間目標

教科・学習形態
目標や内容

評価・改善から
第2期へ

成長の様子
評価とまとめ

令和2年度「ひめつつじ学習」に関する授業研究

小学部「つかもう」「つなげよう」に焦点化した授業研究

対象児童: 小学部6年生 Yさん

育成したい力: 「かかわる力」自他の感情の理解 4段階

年間目標: 相手の気持ちを考え、適切な行動を行うことができる。

本題材の目標: 【自立活動】ゲーム活動を通して自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを聞いたりすることができる。

ポイント: ひめつつじ学習の「つかもう」、「つなげよう」

「つかもう」

6つの気持ちカードの使い方を知る。ゲーム後に気持ちカードの中から、自分の気持ちを選び、気持ちを出し合う。(楽しい、悔しい、悲しい、怒っている、びっくりした、次頑張ろう)

「つなげよう」

ゲームで勝負がつく毎に、今どんな気持ちかを気持ちカードで選び、選んだ理由を言う。また、教師や友達の気持ちも聞く。教師や友達がなぜそのカードを選んだか考える。

評価及び般化した姿: 以前は自分が勝ったときに相手を茶化すようなことがあったが、学習を通して、友達や教師と一緒にゲームを楽しむ姿があった。気持ちカードの表情のイラストを手がかりにしてカードを選ぶことができた。自分や友達、教師が選んだ気持ちカードを黒板の表に貼り、理由の言葉を添えることで、勝敗だけではなく気持ちの可視化と共有ができた。自分が勝負に負けても、調子を崩すことなく、次頑張ろうという前向きな態度が身に付いた。

中学部「ひめつつじ学習」の授業モデルに焦点化した授業研究

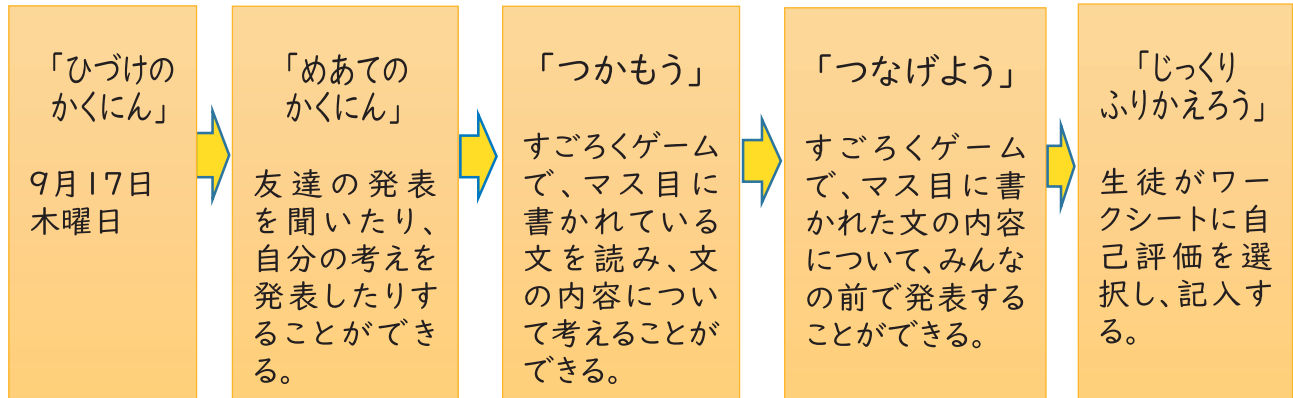
対象生徒： 中学部2年生 Mさん

育成したい力： 「かかわる力」コミュニケーション 4段階

年間目標： みんなの前で発表することができる。

本題材の目標： 【自立活動】友達の考えを聞いたり、自分の考えを発表したりすることができる。

ポイント： ひめつつじ学習の流れに沿った授業の提案



評価及び般化した姿：自分の気持ちをみんなの前で少しずつ伝えることができるようになった。朝の会、帰りの会の司会も教師の支援を受けながら、少しずつ手順を覚え、できるようになってきた。音楽の授業で楽器を作り、紹介する学習では、作る時に工夫したところ等、自分が作った楽器を学年の生徒の前で積極的に紹介することができた。

高等部「めあて(目標)を確認しよう」「じっくりふりかえろう」に焦点化した授業研究

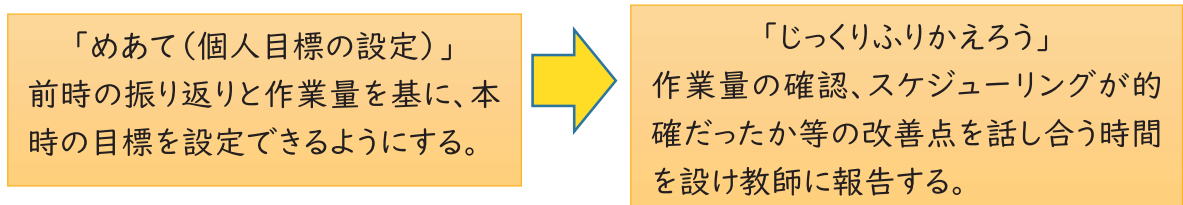
対象生徒： 高等部3年Ⅲ課程

育成したい力： 「働く力」振り返り Ⅱ段階 「働く力」態度 Ⅱ段階

年間目標： 活動内容に見通しを持ち、進んで取り組むことができる。

本題材の目標： 【作業学習】花苗管理・ポット洗い・受注準備等について、自分のやるべき作業工程に見通しを持ち、自ら進んで取り組むことができる。自分の目標(作業効率、正確さ、丁寧さ、スケジュールリング)達成に向けて前日の課題を改善するよう、工夫して取り組むことができる。

ポイント： ひめつつじ学習の「めあてをかくにんしよう」、「じっくりふりかえろう」



評価及び般化した姿：いろいろな作業を組み合わせることで、生徒達も何分までに何をして、何分から何をして・・・や、一日にどれだけ洗えばいいのか等も自分たちで計画を立てることができるようになった。

令和3年度 教科等横断的な授業づくりに関する授業研究

小学部「育成したい力を育む教科等横断的な授業づくり」の授業研究

対象児童：小学部5年生 Kさん

育成したい力：「かかわる力」自他の感情の理解 4段階

年間目標：友達の様子や表情を見ながら行動したり協力したりすることができる。

日常生活の指導
【目標】友達の様子や表情を見ながら声をかけることができる。
【内容】「朝の会をしよう」朝の会での司会や、係活動(出席調べ)をする。

特別活動
【目標】友達の頑張りを見つけ、教師や周りの人に伝えることができる。
【内容】「友達の頑張りを見つけよう」クラスの友達の頑張りを見つけて、発表する。

自立活動
【目標】決められたルールを守ったり、友達と協力したりしてゲームをすることができる。
【内容】「ゲームをしよう」簡単なルールがあるゲームをする。ゲームの中で、進行をしたりチームで活動したりする。

生活単元学習
【目標】場に応じた会話やものやりとりをすることができる。
【内容】「夏祭りをしよう」台詞や対応の仕方を意識して、買い物をしたり、店員役をしたりする。

評価及び般化した姿：以前は自分の状況や気持ちが中心で、友達の様子を気にかけることは難しかったが、「ありがとう」や「お先にどうぞ」等の言葉を使うことができるようになった。友達とのかかわりが円滑になり、自分が困っている時に友達からの「手伝おうか」の声かけを素直に受け入れ、友達に手伝ってもらった場面が見られた。

中学部「育成したい力を育む教科等横断的な授業づくり」の授業研究

対象生徒：中学部1年生 Mさん

育成したい力：「かかわる力」コミュニケーション 5段階

年間目標：人前で、語尾まではっきりと発語し、発表することができる。

自立活動
【目標】丁寧な言葉、視線、声の大きさ、タイミングを考えながら報告ができる。
【内容】「丁寧な言葉で報告をしよう」報告する場面を設定し、報告の場面で大切なポイントを考える。

作業学習
【目標】作業学習の際に、適切な言葉や声の大きさを報告や質問をすることができる。
【内容】「適切な言葉や声の大きさを報告や質問をしよう」報告や質問の仕方、声の大きさを学習する。

国語
【目標】年上の人に対しての適切な言い方(丁寧な言葉使い)を知ることができる。
【内容】「丁寧な言葉使いを知ろう」日常でのやりとりの場面で友達と年上の人に対しての伝え方の違いを知る。

評価及び般化した姿：自立活動では、決まった言葉で繰り返し報告をする学習を行ったことで、決められた言葉で、報告をすることができるようになった。作業学習では、声の大きさがわかりやすいように、サウンドメーターを準備し、授業開始後の報告時の声出し練習で活用した。初めは小さい声であったが、「100dBまであと3だよ」等と伝えることで意欲的に声を出し、報告することができた。

高等部「育成したい力を育む教科横断的な授業づくり」の授業研究

対象生徒：高等部3年Ⅲ課程

育成したい力：「かかわる力」集団参加・協力 9段階 「生活する力」時刻と時間 12段階

年間目標：活動内容に見通しを持ち、自分たちで判断しながら活動できる。

数学（一斉）

【目標】基準を作って並べることができる。

【内容】時間内に図形を等間隔で並べる。

作業学習（一斉/グループ）

【目標】花壇整備計画を作ることができる。

【内容】グループに分かれて花壇整備の日程計画、レイアウトの計画を立てる。

作業学習（グループ）

【目標】計画書に基づき、グループで協力して花壇整備ができる。

【内容】計画書に基づいて、グループごとに花壇整備をする。

評価及び般化した姿：時間内に作業を終わらせるために、時刻と時間も合わせて取り組んでいる。数学では図形を作成するために、用紙の端に基準が必要となるような設定にした。図形カードを作成し、見本と同じように組み合わせを作る等の授業を行った。またタッチパネル（パワーポイント）を使い、図形の移動なども行った。その後作業学習で、小グループにわかれて花壇づくり等を行った。グループにすることで自分の役割が分かり進んで動く姿や、道具を渡し合う等、協力する姿が見られるようになった。

本吉先生より指導助言

<2020年度の授業研究を振り返って>

ひめつつじ学習について

大津支援学校全教員が同じ土俵で授業づくりのポイントを検討する機会になった。

「評価」について

授業計画(授業者)や児童生徒(学習者)へのフィードバックと次年度の計画や未来の授業者へのフィードフォワードになる。※年間指導計画作成とデータベースの意義

「目標設定」と「自己評価」について

先生のリードで目標設定が必要な学部学年(発達段階)と先生の助言を受けながら、児童生徒が自ら目標設定と自己評価をする段階がある。

「主体的・対話的で深い学び」について

主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善については今後も考えていきたい。

<2021年度の授業研究を振り返って>

指導の個別化について

支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現する。特性や学習進度等に応じ指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うようにする。

学習の個性化について

子どもの興味関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。

学習の主体者として育てていく。学ぶことは面白いという価値観にする。

大津支援学校オリジナルツール「おげんまる」について

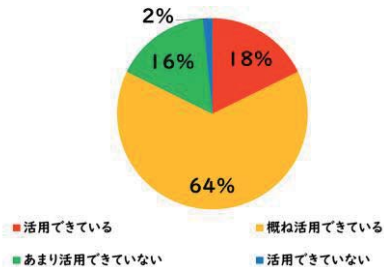
「おげんまる」に知的財産・スキル・時間・労力が投資されている。ICTの活用により情報の活用、負担軽減、授業の質の向上を実現できる。

Ⅲ 研究の成果と課題

「子どもの学び・育ちからスタートする教育課程の充実」に向けたそれぞれの取組が有効であったか、職員アンケートを実施して分析を行った。

取組1 育成したいカー一覧表を活用した授業づくりに関して

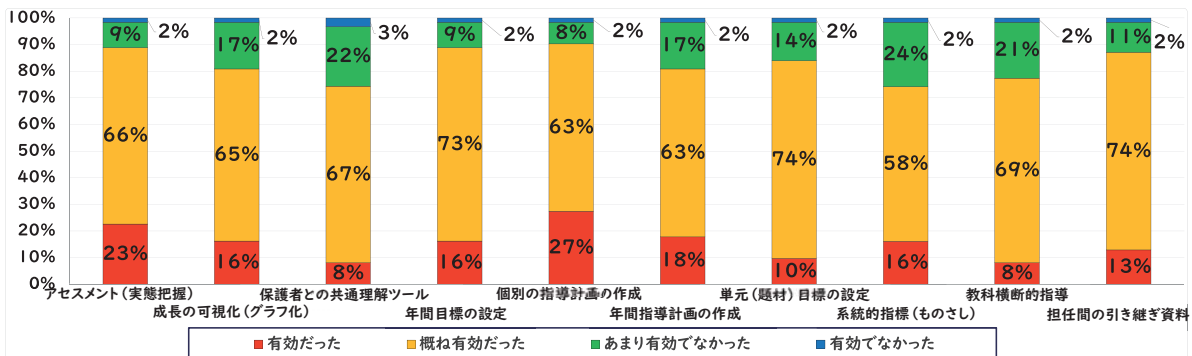
【育成したいカー一覧表を活用した授業づくりができていますか。】



【自由記述から抜粋】

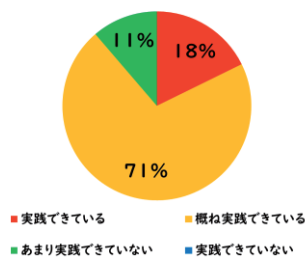
- 年間目標を立てやすくなり、そこから授業づくりにつなぐことができた。
- 目標設定から指導計画、指導案作成まで関連性があり、活用する流れができた。
- 実習評価や就労アセスメント、卒業生のフォローアップ調査の際にも活用できた。
- ▲一斉授業の際、全員分の育成したい力を把握するのは難しい。
- ▲項目の内容が、児童生徒によっては前後することがある。
- ▲項目に同じ内容があり、見直しが必要。

【次の項目について、育成したいカー一覧表の活用が有効でしたか。】



取組2 授業モデル「ひめつつじ学習」に関して

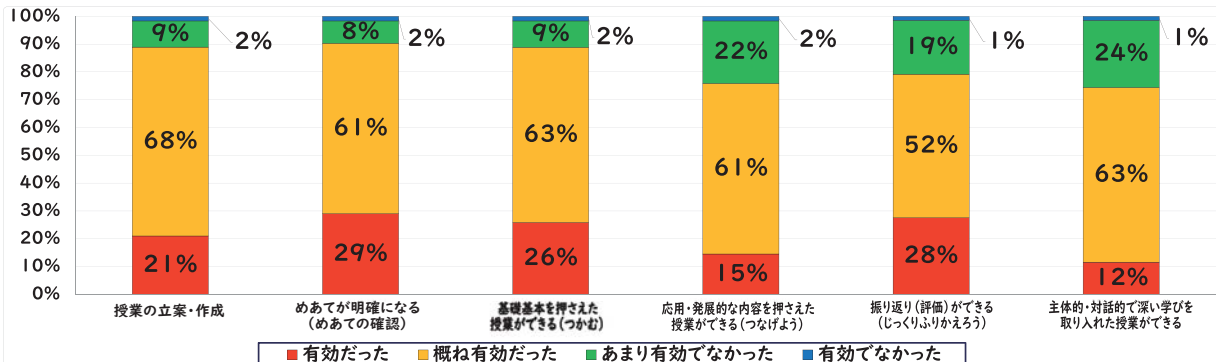
【授業モデル「ひめつつじ学習」を実践できていますか。】



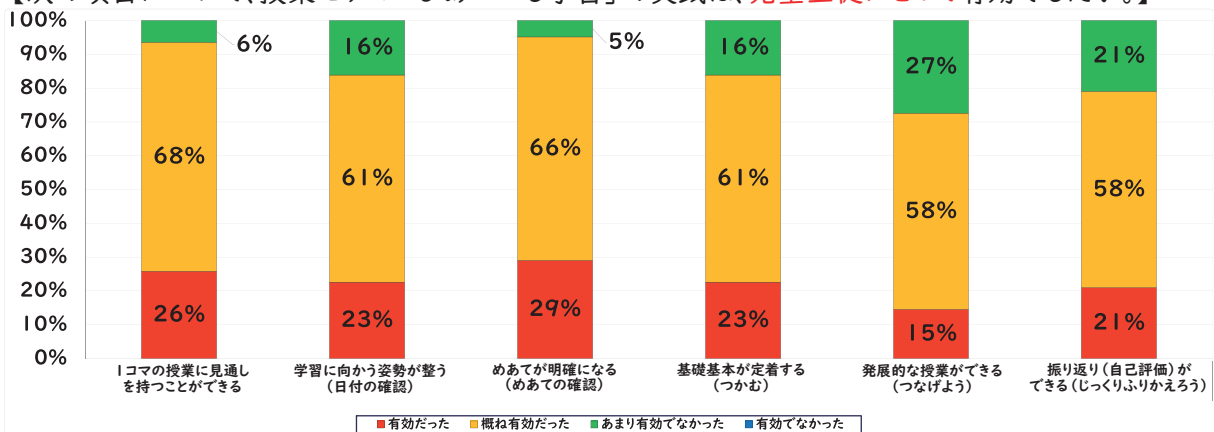
【自由記述から抜粋】

- 学習の流れに見通しを持ち、落ち着いて授業に取り組むことができるようになり、見通しが持てることで自発性も育った。
- 「めあて(目標)」を教師も児童生徒も意識するようになり、「ふりかえり」の重要性を改めて感じるようになった。
- ▲「つかもう」「つなげよう」の捉え方が人によって違う。
- ▲「主体的・対話的で深い学びの姿」が分かりにくい。

【次の項目について、授業モデル「ひめつつじ学習」の実践は、**授業者(教師)**にとって有効でしたか。】

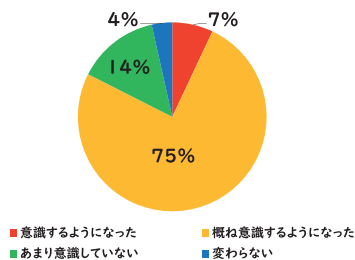


【次の項目について、授業モデル「ひめつつじ学習」の実践は、児童生徒にとって有効でしたか。】

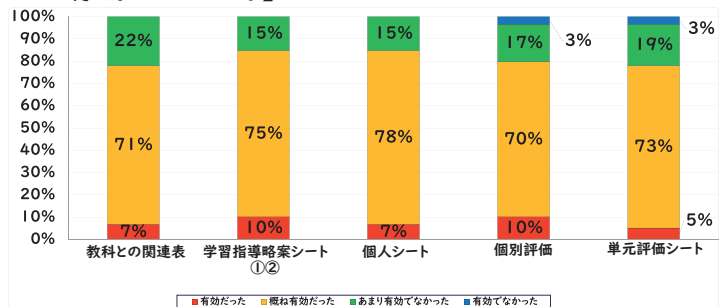


取組3 評価ツールに関して

【評価ツールによって、評価の入力を意識するようになりましたか。】



【次の評価ツールは、それぞれカリキュラム・マネジメントに有効でしたか。】



【自由記述から抜粋】

- 個別評価を活用することで、情報交換をスムーズに行うことができた。
- 学習指導略案の蓄積で、対象児童生徒の過去の授業内容を知ることができ、授業づくりで参考になった。
- 個人シートの活用で3観点の目標を意識し、評価するようになった。
- ▲評価ツールが多すぎる。
- ▲活用の方法を熟知できていない。

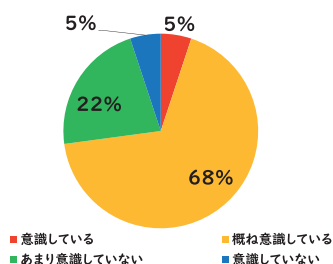
参考資料：学習指導略案データベース

The screenshot shows a database interface with two main panels. The left panel displays a lesson plan for 'ひめつつじ学習の実践' (Hime-tsutsuji Learning Practice) with columns for '活動内容' (Activity Content) and '留意点' (Points to Note). The right panel is a table titled '学習指導略案の蓄積' (Accumulation of Lesson Plans) with columns for '管理番号' (Management Number), '作成年月日' (Creation Date), 'タイトル(学 -)' (Title), and '学習指導略案(シ -)' (Lesson Plan).

管理番号	作成年月日	タイトル(学 -)	学習指導略案(シ -)
519	2021/10/23	小学部	図工
520	2021/10/24	小学部	音楽
521		小学部	生活単元学習
522		小学部	生活
523	2021/10/27	小学部	理科
524		小学部	生活単元学習
525		小学部	図工
526	2021/11/02	小学部	社会
527	2021/11/02	小学部	生活単元学習
528	2021/10/26	小学部	生活単元学習
529	2021/11/04	小学部	国語
530	2021/11/04	小学部	美術
531		小学部	生活単元学習
532		小学部	生活単元学習
533	2021/11/10	小学部	日常生活の指導
534		小学部	音楽
535	2021/11/11	小学部	職業・家庭
536	2021/11/16	小学部	生活単元学習
537	2021/11/16	小学部	音楽
538	2021/11/17	小学部	音楽
543	2021/11/19	小学部	職業・家庭
544	2021/11/25	小学部	美術
545		小学部	国語
546		小学部	国語
547		小学部	自立活動
548		小学部	自立活動
549	2021/11/26	小学部	特別活動

おげんまるに関して

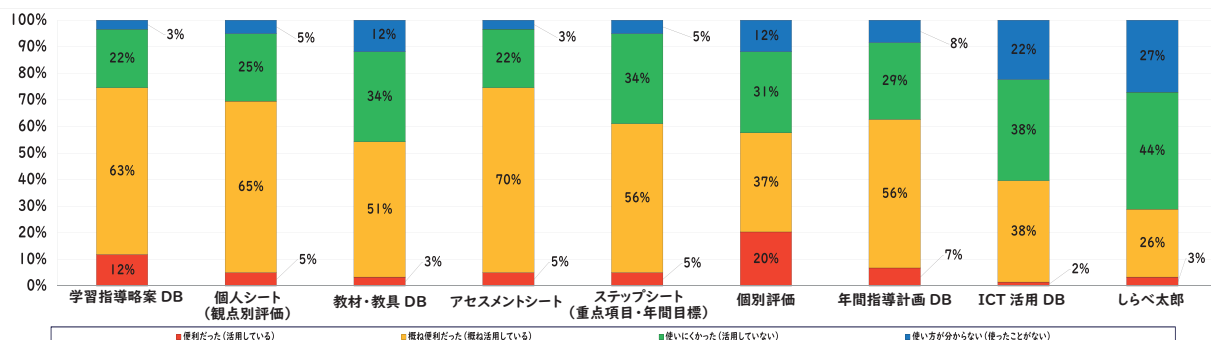
【おげんまるタイムを意識していますか。】



【自由記述から抜粋】

- いろいろなものが一つにまとまっていて作業の効率化が図れた。
- データが蓄積されるので、計画を立てる際に参考になる。
- 計画や評価等の情報を共有することができた。
- ▲データが消えることがあり、時間がかかった。
- ▲汎用性や自由度に課題がある。

【次のツールのうち、便利だった(活用している)ものはどれですか。】



学部研究に関して

【自由記述から抜粋】

- 教科横断的に研究していくことができた。
- 評価を意識するようになった。
- 対象児童について検討しながら、全体的な学習等についても意見交換できた。
- ▲もっと事例研の時間を確保してほしい。
- ▲教育課程について話し合う時間が足りなかった。

成果と課題

取組1に関しては、アセスメント、目標設定、計画立案、担任間の引き継ぎ等、授業づくりを行う上で育成したいカー一覧表の活用が有効であったとの成果が見られた。一方で、育成したいカー一覧表の項目について、内容や順序の見直しが必要な部分があった。

取組2に関しては、「ひめつつじ学習」の実践が定着してきており、教師も児童生徒も学習の流れに見通しを持って取り組むことができた。しかし、「つかもう」「つなげよう」等の捉え方や「主体的・対話的で深い学び」の具体的な姿が分からないといった課題があった。授業研究を重ね、内容を深めていく必要がある。

取組3に関しては、学習評価ツールを活用することで評価入力を行うようになり、それがカリキュラム・マネジメントに有効だったという成果が見られた。しかし、評価ツールが多すぎるといった意見や、活用の方法を熟知できていないという意見もあった。

この3年間の取組の中で、「おげんまる」の活用によって作業の効率化を図ることができ、学部研で対象児童生徒について検討を深めていくことができた。様々なツールを活用することによって、職員一人一人の授業づくりへの意識が高まってきたと考えられる。

IV 研究のまとめ

(1) PDCA サイクルを確立し、教育課程の改善につながるカリキュラム・マネジメントの構築

「育成したいカー一覧表」を活用したアセスメント(子どもの学び・育ち)から、重点項目、年間目標の設定、目標を達成するための指導場面や授業内容等の計画立案(P)、ひめつつじ学習による授業実践(D)、学習評価や指導評価、「育成したい力」の変容(C)を踏まえた授業改善、教育課程の見直し(A)、次年度につながる重点項目の選定(P)という一連の PDCA サイクルを確立することができた。

この PDCA サイクルを確立する上で、本校独自の校務支援ツール「おげんまる」が重要な役割を果たした。「おげんまる」には、児童生徒の「育成したいカー一覧表」のアセスメントをはじめとし、計画を立てたり評価をしたりする際に必要なデータが一元化されている。そのため、前述のアンケート結果からも分かるように、様々なツールが授業づくりの場面で活用されており、作業の効率化につながった。PDCAサイクルのP(計画)D(実践)に重きを置きやすく、C(評価)A(改善)を充実させることが課題としてあげられていたが、おげんまるタイム等を活用しながら学習指導略案の学習評価や三観点別評価の入力を行い、単元評価の取組が定着してきた。その結果、職員一人一人のC(評価)A(改善)への意識が高まり、教育課程の改善につなげることができてきた。

(2) 教師一人一人の授業力向上による、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践

基本的な授業モデルとして「ひめつつじ学習」を提案したことで、同じ流れで授業を組み立てることができ、授業づくりに難しさを感じている職員でも、毎時「めあて」や「ふりかえり」を意識するようになる等、ポイントをおさえた授業実践を行うことができた。児童生徒もまた、学習の流れに見通しを持てるようになり、落ち着いて学習に取り組んだり、意欲的に発言したりする姿が見られるようになった。アンケート結果からも分かるように、「おげんまる」を活用することで、蓄積された学習指導略案を参考にしながら授業を考えたり、学習指導要領との関連も意識しながら授業内容を構成したりすることができ、教師一人一人の授業力向上につながったと考えられる。

「ひめつつじ学習」に沿って授業を行う流れが定着してきた一方で、「めあて」はこれでいいのか、「つかもう」「つなげよう」の内容になっているか、「ふりかえり」の方法は他にないだろうか等について議論を深める時間が足りなかった。本校の児童生徒の「主体的・対話的で深い学びの姿」とは具体的にどのような姿なのかという点においても認識の違いがみられるので、授業実践を積み重ねながら明確にしていきたい。

「育成したい力」の変容において、1年間の伸び率の平均値(*)を見ると、1年目が11.0%、2年目が8.0%、3年目の今年が半年間で5.1%伸びており、毎年10%前後ずつの伸びが期待できる。今回の研究をとおして、教育課程の改善につながる PDCA サイクルを確立し、育成したい力を育むことができたと考える。評価したものを教育課程検討委員会で提案し、教育課程の改善につなげるという流れができ、現在は、その流れに沿って取組を始めたばかりの段階である。今後もこの研究で作り上げたPDCAサイクルに添って取り組みながら、課題を一つ一つ丁寧に追究していき、教育課程の充実へとつなげていきたい。 (*)巻末資料のP23参照

講評とあとがき

熊本大学大学院教育学研究科 准教授 本吉大介

今回の大津支援学校の研究プロジェクトに関わるにあたり、以下の5つを心掛けました。

- ①2018年度までの研究成果を活かしたい
- ②個に応じた効果的な指導をめざしたい
- ③先生方の経験の差を補える仕組みにしたい
- ④業務の負担は増やさないようにしたい
- ⑤研究することの意味を共有したい

学校が取り組んでいる喫緊の課題への対応と、新しいことへの挑戦のバランスをとりながら研究を進めていくことが大切だと考えたからです。研究というのは未来への投資だと考えていますので、資源を配分しすぎると我慢を強いられる日々になります。しかし、研究の進捗状況を聞かせていただくたびに「〇〇が課題です」と話され、直ちに改善される先生方の向上心と行動力にいつも敬服していました。

特別支援学校学習指導要領にはカリキュラム・マネジメントは以下のように説明されています。

各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。その際、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の(3)のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。

カリキュラム・マネジメントの仕組みを作って運用していくことに加え、感染症対策が加わり、GIGA スクール構想などが加わった状況で、働き方改革を実現する。ここで着目したのが教育学+情報学のアプローチでした。情報・視聴覚部にデータベースを開発できる先生がおられたというのは奇跡的・運命的だったのかもしれませんが。当然、データベースを運用するためには業務フローへの介入が必要です。教務部、研究部、教育・自立支援部など各分掌部が一体になって推進しなければガタガタになってしまいます。また、何かを加えるには何かを削減しなければなりません。その経営判断を管理職の方で進めていかれたとうかがっています。

今回の研究を形にしていく上で考慮しなければならなかったことは、大津支援学校の固有の状況、学習指導要領に既に示されていること、そして「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」のように未来に向かって取り組むべきこと、すなわち過去と現在と未来を繋ぐことでした。この研究を良い取り組みにしていくためには、「何をどのように進めていくか」というアイデアはもとより、実現するための資源配分、配分された資源を最も効果的に運用する方法など、組織運営の側面を考えていく必要があります。大津支援学校では研究推進連絡会を設置し、学校内部の研究体制を整え、研究部を中心に外部とのやりとり・舵取りによって“船頭多くして船山に上る”状況にならないようにされてきました。さらに、先生方お一人お一人の日々の取り組みの蓄積が研究成果に厚みを加えています。

「令和の日本型学校教育」の姿の中に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」というキーワードがあります。「個別最適な学び」に向かっては、今回の研究で一定の取り組みの方向性が示されました。特別支援学校における「協働的な学び」については、突き詰めて研究してみる価値があると考えています。学校内で多様な実態の児童・生徒同士が協働して学ぶ授業の在り方について考えていく方向性もあります。「空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切」というフレーズを受け、交流及び共同学習を充実させていくことなど、挑戦してみたい方向性もあります。

今年度までの研究成果は、今後、維持すべきこと・改善すべきこと・省略してもよいことなどに分類され、スマートに洗練されていくと思います。カリキュラム・マネジメントの仕組みが安定的かつスムーズに運用されるようになり、新しいことを考える余力が出てきましたら、様々な教育機関等と連携して生涯学習に向かう意欲や態度を育むような取り組みにもチャレンジできたらと期待しております。ICT を活用した交流及び共同学習については、私の研究室でも小さく場づくりを始めています。インターネットを使った主体的な情報収集や交流の場への参加は、生涯学習に欠かせない要素になると考えています。

上記のアイデアは私個人の想いです。大津支援学校の先生方からも「あんなこと、こんなことをやってみたい」というアイデアが湧き出てきて、活気のある学校研究に発展していったらと願っております。

この度は、貴重な機会をいただきありがとうございました。



育成したい力の変容

P20「育成したい力」一年間の伸び率の平均値

2019年度育成したい力の変容(全児童生徒129名*高等部3年生20名を除く)

	4月時点平均値	2月末時点平均値	伸び率
生活する力 着替え	5.7	6.2	7.9%
生活する力 排遣	7.1	7.4	5.0%
生活する力 清潔・健康管理	5.6	6.0	7.4%
生活する力 食事・調理	6.1	6.5	6.6%
生活する力 整理整頓・掃除	5.8	6.2	7.1%
生活する力 役割	5.9	6.4	8.1%
生活する力 お金	4.6	5.1	9.8%
生活する力 時刻と時間	5.5	5.9	8.6%
生活する力 公共施設等の利用	5.1	5.7	10.6%
かかわる力 かかわり(友達、異性、距離)	5.8	6.3	7.6%
かかわる力 其他の感情の理解	4.2	4.7	12.2%
かかわる力 集団参加・協力	4.8	5.2	9.6%
かかわる力 コミュニケーション	4.8	5.4	11.5%
かかわる力 余暇・時間の使い方	5.3	5.8	9.2%
働く力 決まりやルールの遵守	4.7	5.3	12.7%
働く力 態度(仕事上)	5.2	5.7	10.8%
働く力 見通し・スケジュールの把握	5.5	6.0	9.8%
働く力 仕事上のコミュニケーション(報告・質問)	5.1	5.5	8.8%
働く力 自己選択	5.5	5.9	7.3%
働く力 目標設定	5.1	5.6	9.3%
働く力 振り返り	5.2	5.7	9.2%
働く力 仕事・職業の理解	5.3	5.8	7.9%
働く力 働く体力(心の体力も含む)	6.0	6.5	8.7%
働く力 仕事の技能 道具の使い方	5.2	5.7	9.6%
育成したい力全体の段階平均値	5.3	5.9	11.0%

2020年度育成したい力の変容(全児童生徒158名)

	4月時点平均値	2月末時点平均値	伸び率
	6.0	6.5	8.1%
	7.3	7.6	4.9%
	5.8	6.2	7.3%
	6.4	6.8	6.7%
	6.0	6.5	7.6%
	6.1	6.6	8.2%
	4.9	5.3	6.9%
	5.8	6.3	8.3%
	5.4	5.6	4.7%
	6.0	6.5	8.0%
	4.6	5.0	10.1%
	5.0	5.5	10.2%
	5.2	5.7	9.6%
	5.6	6.0	7.9%
	5.1	5.6	10.0%
	5.4	5.9	9.8%
	5.8	6.3	7.8%
	5.4	5.8	7.7%
	5.7	6.2	9.0%
	5.4	5.8	8.7%
	5.5	5.9	7.7%
	5.5	6.0	8.7%
	6.3	6.7	6.7%
	5.5	6.0	9.7%
	5.6	6.1	8.0%

2021年度育成したい力の変容(全児童生徒163名)

	4月時点平均値	10月末時点平均値	伸び率
	5.9	6.3	5.7%
	7.1	7.3	3.2%
	5.6	6.0	5.7%
	6.3	6.5	3.9%
	5.9	6.2	5.0%
	6.0	6.3	5.0%
	4.7	5.0	5.2%
	5.7	6.0	4.7%
	5.1	5.3	3.3%
	6.0	6.3	3.7%
	4.5	4.8	6.1%
	4.8	5.1	6.0%
	5.0	5.3	6.1%
	5.5	5.8	6.0%
	5.0	5.3	6.1%
	5.3	5.6	5.6%
	5.6	5.9	5.4%
	5.3	5.5	4.4%
	5.6	5.9	5.0%
	5.2	5.5	5.3%
	5.3	5.6	5.8%
	5.5	5.8	4.9%
	6.1	6.4	4.8%
	5.4	5.7	6.0%
	5.5	5.8	5.1%

アセスメントシート

育成したい力	名前()	小学部	5年	1組	注意事項	入力例
生活する力					生活する力	
着替え						
排遣						
清潔・健康管理						
食事・調理						
整理整頓・掃除						
役割						
お金						
時刻と時間						
公共施設等の利用						

ステップシート

生活する力	かかわる力	働く力
1 着替え	1 其他の感情の理解	1 仕事上のコミュニケーション
2 時刻と時間	2 コミュニケーション	2 目標設定
3 着替え	3 集団参加・協力	3 振り返り

個別の指導計画

令和3年度(2021年度)個別の指導計画

氏名(性別)	学部	小学部	担任
	5年	5年	
目指す3年後の姿・生活	「生活する力」 ・着替えをして身だしなみを整えることや、清潔を意識して手洗い等を行うこと、学習の準備や片付けを一人でできる。 「かかわる力」 ・相手に場に応じた言葉で自分の気持ちを伝えることができる。 「働く力」 ・活動に見通しを持ち、日常生活に必要なきまりを守って行動することができる。		
年間目標	「生活する力」 ・時間を意識して、着替えをすることができる。 「かかわる力」 ・友達の様子や表情を見ながら、行動したり、協力したりすることができる。 「働く力」 ・学校行事等で目標を教師と一緒に決め、活動後は、自分の頑張りを周りの人に伝えることができる。		

重点的に付けたい力	指導場面	評価
「生活する力」 着替え 排遣 清潔・健康管理 食事・調理 整理整頓・掃除 役割 お金 時刻と時間 公共施設等の利用	算数 日常生活の指導	
「かかわる力」 かかわり(友達、異性、距離) 其他の感情の理解 集団参加・協力 コミュニケーション 余暇・時間の使い方	自立活動 体育 国語 特別活動 生活単元学習	
「働く力」 決まりやルールの遵守 態度(仕事上) 見通し・スケジュールの把握 仕事上のコミュニケーション(報告・質問) 自己選択 目標設定 振り返り 仕事・職業の理解 働く体力(心の体力も含む) 仕事の技能 道具の使い方	日常生活の指導 生活単元学習 特別活動 体育	

小学部 5年1組	前期における目標・手立て	評価
目標	手立て	
<生活> ・ほうきを使ってゴミを集めることができる。	・ほうきの持ち方を教師が示し、持つ手の位置や掃く方向と一緒に確認する。 ・見えやすいような大きなゴミ(新聞紙をちぎったもの等)を準備し、ゴミを集める練習を行う。 ・ゴミを集める場所を一方所に決めておく。	○
<国語> ・文字の形や大きさに注意して、平仮名文字を書くことができる。	・均等な文字の大きさに書くことができるように枠を準備する。 ・手本となる文字を準備し、文字を書いた後に形や大きさを確認する。	○
<算数> ・1桁+1桁(5までの数同士)の足し算をすることができる。	・具体物を準備し、式に合わせた個数を並べ、一緒に数えて確認しながら答えを求めるようにする。 ・数える際には、声に出して数唱するように促す。	△
<音楽> ・音の高低や速度に合わせて、身体を動かすことができる。	・動物のイラストを用意し、なじみのある動物の歌の曲で高低や速度に応じて動物の動きを表現するようにする。 ・伴奏に合わせて動くようにし、音に強弱をつける等して、動きに反応がつかないようにする。	○
<図画工作> ・身近な材料を使って、形に切ったり、貼ったりしながら作品を作ることができる。	・大きさや色の異なる紙等を準備し、どんな形を作りたいかを教師と一緒に考える。 ・見本となる形の型紙を用意し、型紙に合わせて切るように促す。	○
<体育> ・教師の動きを模倣して、スポーツテストの種目に取り組むことができる。	・動きが分かるよう、教師が手本を示したり、事前に練習する時間を設けたりする。 ・意欲的に取り組めるよう、毎回記録をとって伝えたり、記録の伸びをテープ等で視覚的に示したりする。	○
<日常生活の指導> ・決められた時間内に着替えることができる。	・足に装具を使用しているため、安定して着替えることができるように椅子を用意し、衣服をたたむ場所を教師と一緒に確認する。 ・アナログ時計を準備し、目標とする時間を一緒に決める。	○
<生活単元学習> かかわる—集団参加、協力 「レクチャー・レップライング」 ・他学年の友達と一緒に楽しくおもちゃを作り、遊ぶことができる。	・事前に一緒に活動する友達や教師の名前を知らせておく。 ・座席の位置を他学年の友達の隣にする等の工夫をしたり、遊び場に移動して遊ぶ際には、同じグループの友達の誘いを誘うように促す。	○
<特別活動> ・友達により関心が持てるよう友達が頑張っている写真を準備したり、教師が嬉しく思ったことを伝えたりする。 ・奏さんやクラスの友達の頑張りを見つけて紹介する。	・友達により関心が持てるよう友達が頑張っている写真を準備したり、教師が嬉しく思ったことを伝えたりする。 ・奏さんやクラスの友達の頑張りを見つけて紹介する。	◎
<自立活動> かかわる—其他の感情の理解 ・友達とのベースに合わせた、友達の表情を見て言葉かけたりすることができる。	・室内でのゲームの活動では友達とペアを作り、順番を決めて交代しながら参加できるようにする。 ・ゲームの中で友達が困っている様子が見られたら、「どうしたの?」「次どうぞ」等の言葉を示して友達に言葉かけを促す。	○
<評価> 算数: 式を声に出しながら、具体物を動かすことはできた。しかし、自分でやることに対して不安があるのか、一人でできるようになったが「教えて下さい」という場面が見られた。問題提示の仕方等手立てを再度検討する必要があると感じた。 特活: 以前は、自分のことを中心に考えがちで周りの友達のことに関心がなかった。学習を通して、友達への声かけや状況を見ることに意識が持てるようになり、友達を思いやる気持ちが生まれ、優しい言葉かけをするようになった。学校の汎化の部分も少しずつ見られてきた。		

おわりに

本校では、これまで教育課程の改善を目指して、系統立てた研究に取り組んできております。平成27年度～平成28年度には、研究テーマ「『育成したい力』を踏まえた、各教科・自立活動の授業実践」を掲げ、現在の授業づくりの元となる「育成したい力一覧表」を作成し、学習過程の質的改善を図りました。

平成29年度～平成30年度には、「一人一人の学びの連続性を重視した指導の充実～育成したい力一覧表に基づく、12年間の学びの可視化を目指して～」と題して、「何ができるようになるか」「何ができるようになったか」を明確にするための切れ目のない教育支援の充実に取り組みました。

今回発表をする平成31年度～令和3年度は、「育成したい力一覧表」を活用したアセスメントと、年間指導計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画等の見直しを行うために、「子どもの学び・育ちからスタートする教育課程の充実」を研究テーマとして掲げました。児童生徒が「育成したい力」を身に付けることのできる質の高い授業づくりとともに、授業実践後の評価システムとPDC Aサイクルの確立を図り、本校のカリキュラム・マネジメントをより良い方向へ志向することが目的です。

遠くに大阿蘇を望む開放感いっぱいの環境の中、さらに伸び伸びと育ち、笑顔いっぱい活動する子どもたちの姿を思いながら、研究部を中心に試行錯誤を重ねてきました。

まだまだ道半ばではありますが、今年度までの成果を十分に踏まえ、これからもいろいろなことを考え試しながら、よりよい授業づくりに取り組んでいきます。

本来であれば子どもたちの様子を直に御覧いただき本校の授業実践を感じていただくところでしたが、残念ながら今回は新型コロナウイルス感染症の拡大をうけて、オンデマンド型での動画配信・発表に替えさせていただきました。その中でもたくさんの御視聴・御意見をいただきありがとうございました。

また、今回の取組にあたって、何度も来校をお願いして指導をいただいた熊本大学大学院教育学研究科准教授 本吉 大介 様には深く感謝申し上げます。

最後に、平素より本校教育に御理解・御協力とお力添えをいただいている皆様には、改めて感謝申し上げますとともに、なお一層の御指導・御鞭撻をいただきますよう、お願いいたします。

令和4年(2022年)3月 教頭 白木川 洋



Ozu Special Needs Education School

熊本県立大津支援学校

〒869-1235 熊本県菊池郡大津町大字室1381番地
TEL 096-293-0486 FAX 096-293-8052